

2020年10月8日

各位

SBI リスタ少額短期保険株式会社

SBI インシュアランスグループ
シリーズアンケート⑤

住まいへの意識に関する調査を実施

～コロナ禍を経て約4割が「地方に住みたいと思うようになった」と回答～

SBI インシュアランスグループの事業会社6社は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う行動様式・生活の変化を調査するため、各事業会社の特性に合わせたアンケート調査を実施いたしました。

SBI リスタ少額短期保険株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：松尾 茂）では、住まいへの意識に関するアンケート調査を実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。

◆ 調査結果のサマリー

■ 新型コロナウイルス感染症により「地方に住みたいと思うようになった」方は約4割

居住地に対する意識の変化について質問したところ、「現在より地方に住まいを変えたい」と回答された方のうちの39.7%が、新型コロナウイルス感染症により「地方に住みたいと思うようになった」と回答されました。

また、具体的な意識の変化としては、「二拠点に住まいを所有したいと考えるようになった」、「移住に対して興味や関心を持った」との回答がありました。

なお、移住先の希望については、20代女性の約49%、60歳以上の女性約61%の方が「都会」を希望されているのに対し、60歳以上の男性で「都会」を希望される方は約28%にとどまり、20代男性では約42%が「地方」を希望されるなど、男女において嗜好に差が見られるという結果になりました。

■ 地元への愛着が強かったのは「四国地方」

現在の居住地を選んだ理由について質問したところ、「出身地だから」と回答された方が最も多かったのは四国地方（60.0%）でした。四国地方については、「将来的に居住地を変えたいと思うか」という質問に対して「特に変えたいと思わない」と回答された方の割合も最も高く（70.0%）、四国地方にお住まいの方は地元への愛着が強いことがうかがわれました。

■ コロナ禍にて居住地の良さを実感したのは「日用品・食料品購入の便利さ」・「近隣の自然環境の豊かさ」

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下の生活において現在の居住地に住んでよかったと実感したことについて質問したところ、「日用品や食料品の購入が便利である」ことをあげる方が39.0%と最も多いという結果となりました。

その次に特徴的だったのは、「近隣の自然環境が豊かであること」で26.1%という結果でした。居住区分別でみた場合は、共同住宅（持家）にお住まいの方は「日用品や食料品の購入が便利である」ことをあげる方が56.9%であるのに対し、一戸建て（持家）にお住まいの方では、「近隣の自然環境が豊かであること」をあげる方が32.5%いらっしゃるという結果となりました。

■ 自粛期間中に「住まいの良さ」をより実感したのは「一戸建て」居住者

新型コロナウイルス感染症による自粛期間中において「共同住宅でよかったと実感したこと」・「一戸建てでよかったと実感したこと」を質問したところ、共同住宅にお住まいの方については「よかったと実感したことが特に無かった」と回答された方が約75%であるのに対し、一戸建てにお住まいの方については、「集団感染のリスクの低さ」や「部屋が多い・広いこと」等、複数の利点を実感されている方が多く、「よかったと実感したことが特になかった」と回答した方は約25%にとどまるという結果でした。

◆ 調査概要

調査タイトル	住まいへの意識に関する調査
調査期間	2020年9月1日（火）～2020年9月8日（火）
調査方法	インターネットリサーチ
調査対象	性別：男女 年齢：20歳以上 地域：全国
有効回答数	1,078

【会社概要】

- 会社名 : SBI リスタ少額短期保険株式会社
- 所在地 : 東京都港区六本木 1-6-1
- 設立年月日 : 2006年4月3日
- 資本金 : 30,000千円
- 事業内容 : 少額短期保険業
- U R L : <https://www.jishin.co.jp>

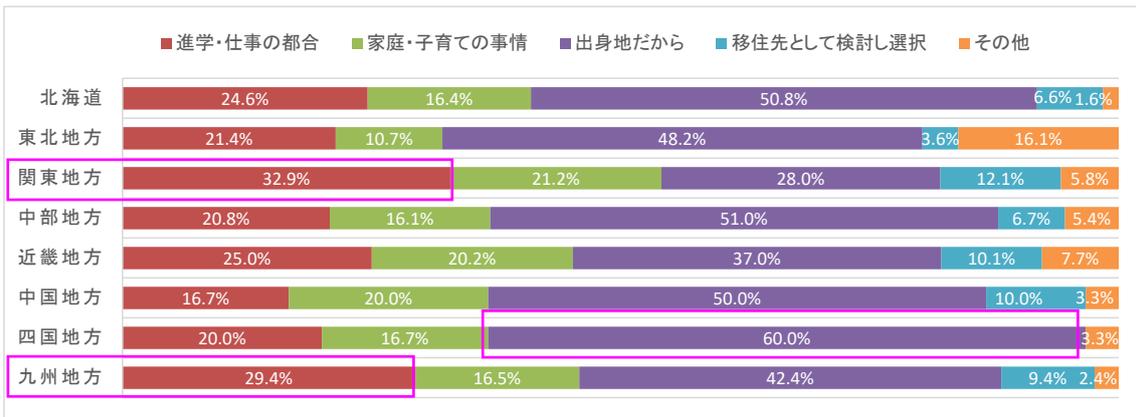
◆ 本調査に関する問い合わせ先

SBI リスタ少額短期保険株式会社 管理部 03-6229-1014

【参考資料】住まいへの意識に関する調査結果

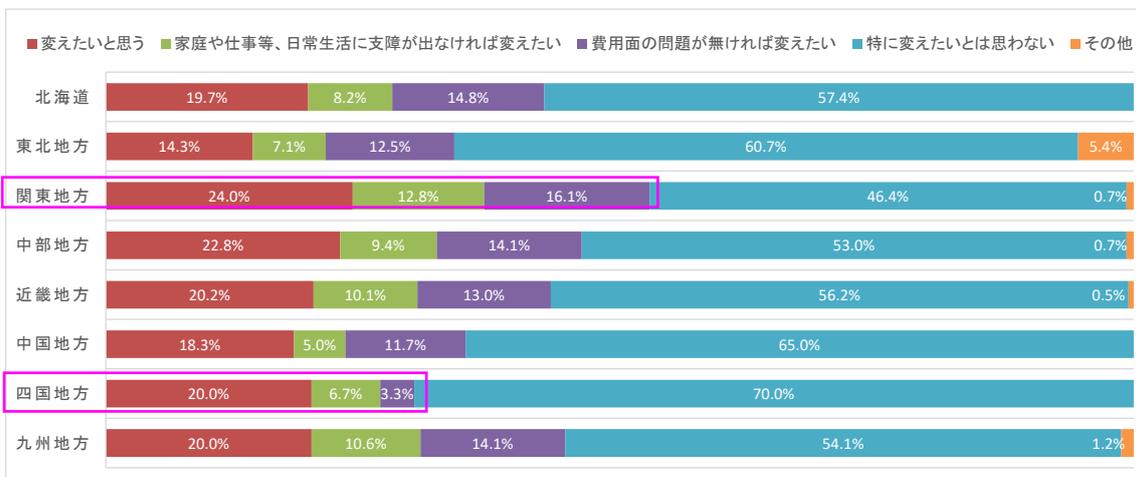
(1) 現在の居住地を選択した理由

現在お住まいの地域を選択した理由については、ほとんどの地域で「出身地だから」という理由が約半数で、最も割合が高かったのは四国地方（60.0%）という結果となりました。関東地方および九州地方では、「進学・仕事」が理由となっている方もおよそ3割いらっしゃり、その他の回答としては、「住みやすさ・環境」、「結婚」がありました。



(2) 移住希望の有無

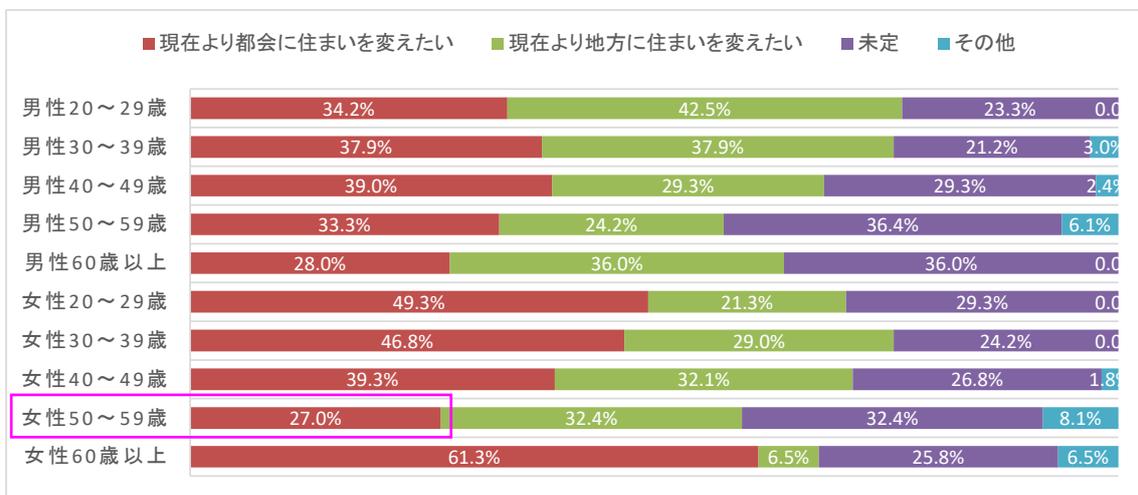
将来的に居住地を変えたいと思うかと質問したところ、移住を希望する方の割合が最も多かった地域は関東地方で、「日常生活に支障がなければ変えたい」・「費用面の問題がなければ変えたい」という方も含めると、52.9%と半数以上の方が移住の希望をお持ちであるという結果となりました。移住の希望が少ないのは四国地方（30%）と東北地方（33.9%）という結果でした。



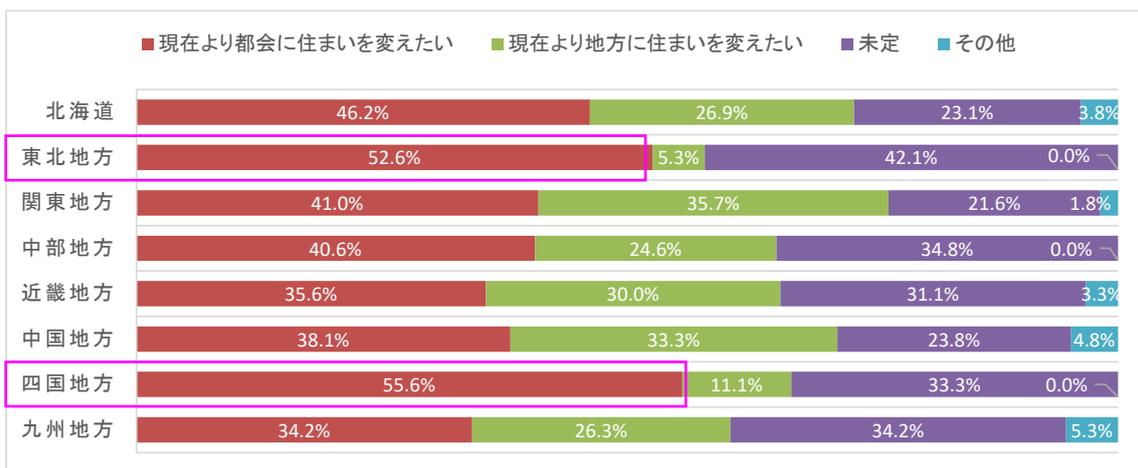
(3) 移住先の希望

移住を希望するかどうかという質問に対し、「変えたい」・「日常生活に支障がなければ変えたい」・「費用面の問題がなければ変えたい」と回答された方に移住先の希望を聞いたところ、女性はより都会を好むという傾向が見られましたが、50代の女性については、他の世代より都会を好む傾向が約1~3割程度少ないという結果となりました。50代の女性は職場や家庭で求められる責任・役割が大きく、のんびりされたいというお気持ちの方が多いのかもしれません。地域別では、東北地方・四国地方の方が都会を好まれているという傾向が見られました。

<世代別>



<居住地域別>



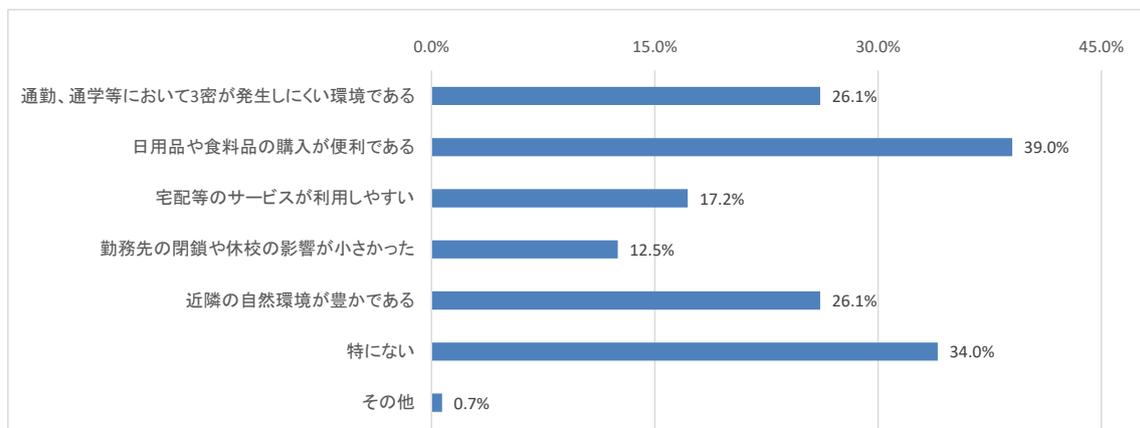
なお、「より地方に住まいを変えたい」と回答された方に居住地に対する意識の変化について聞いたところ、39.7%の方が新型コロナウイルス感染症の影響によって「地方に住みたいと思うようになった」と回答されました。

		新型コロナウイルス感染症の影響による居住地に対する意識の変化			
		特に変わらない	都会に住みたいと思うようになった	地方に住みたいと思うようになった	その他
移住先の希望	現在より都会に住まいを変えたい	74.6%	18.9%	6.0%	0.5%
	現在より地方に住まいを変えたい	47.7%	11.3%	39.7%	1.3%
	未定	79.4%	3.7%	16.9%	0.0%
	その他	72.7%	9.1%	0.0%	18.2%

(4) 緊急事態宣言下において「よかった」と実感したこと

① 現在の「居住地」について

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言以降の生活の中で、現在の居住地に住んでいてよかったと実感したことを質問した結果は下記のとおりでした（複数回答可）。



<居住地地域別>

	通勤、通学等において3密が発生しにくい	日用品や食料品の購入が便利である	宅配等のサービスが利用しやすい	勤務先の閉鎖や休校の影響が小さかった	近隣の自然環境が豊かである	特になし	その他
北海道	29.5%	41.0%	13.1%	11.5%	29.5%	26.2%	1.6%
東北地方	42.9%	33.9%	16.1%	14.3%	37.5%	33.9%	0.0%
関東地方	19.8%	41.3%	16.8%	11.7%	23.8%	35.0%	0.7%
中部地方	32.9%	34.2%	14.8%	14.8%	23.5%	32.2%	0.7%
近畿地方	25.0%	41.3%	24.0%	10.1%	26.4%	34.6%	1.0%
中国地方	25.0%	33.3%	18.3%	15.0%	30.0%	35.0%	1.7%
四国地方	33.3%	36.7%	3.3%	16.7%	23.3%	36.7%	0.0%
九州地方	32.9%	36.5%	14.1%	15.3%	29.4%	35.3%	0.0%

<世代別>

	通勤、通学等において3密が発生しにくい	日用品や食料品の購入が便利である	宅配等のサービスが利用しやすい	勤務先の閉鎖や休校の影響が小さかった	近隣の自然環境が豊かである	特にない	その他
男性20～29歳	18.9%	30.6%	18.9%	10.8%	18.0%	36.9%	0.0%
男性30～39歳	19.8%	31.5%	19.8%	13.5%	18.0%	39.6%	0.9%
男性40～49歳	32.7%	30.7%	9.9%	22.8%	27.7%	39.6%	2.0%
男性50～59歳	31.1%	37.9%	14.6%	9.7%	25.2%	37.9%	1.0%
男性60歳以上	27.5%	42.2%	16.5%	9.2%	40.4%	31.2%	0.9%
女性15～19歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性20～29歳	27.0%	35.1%	22.5%	18.0%	22.5%	30.6%	0.0%
女性30～39歳	27.9%	35.1%	20.7%	11.7%	17.1%	36.0%	0.0%
女性40～49歳	25.3%	44.4%	12.1%	13.1%	21.2%	35.4%	2.0%
女性50～59歳	35.5%	51.8%	14.5%	13.6%	31.8%	28.2%	0.0%
女性60歳以上	16.1%	50.0%	20.5%	3.6%	38.4%	25.9%	0.9%

② 現在の「住まい」について

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言以降の生活の中で、現在の住まいに住んでいてよかったと実感したことを質問した結果は下記のとおりでした（複数回答可）。

【共同住宅に住んでいてよかったと実感したこと】

共同住宅内の施設を利用することができる	ゴミ出しの際に外出する必要がない	特になかった	その他
7.0%	18.9%	75.2%	0.6%

●その他の回答

- ・ 「隣近所との接触が少ない」
- ・ 「子供を残しての出勤があったので防犯の面で安心だった」

【一戸建てに住んでいてよかったと実感したこと】

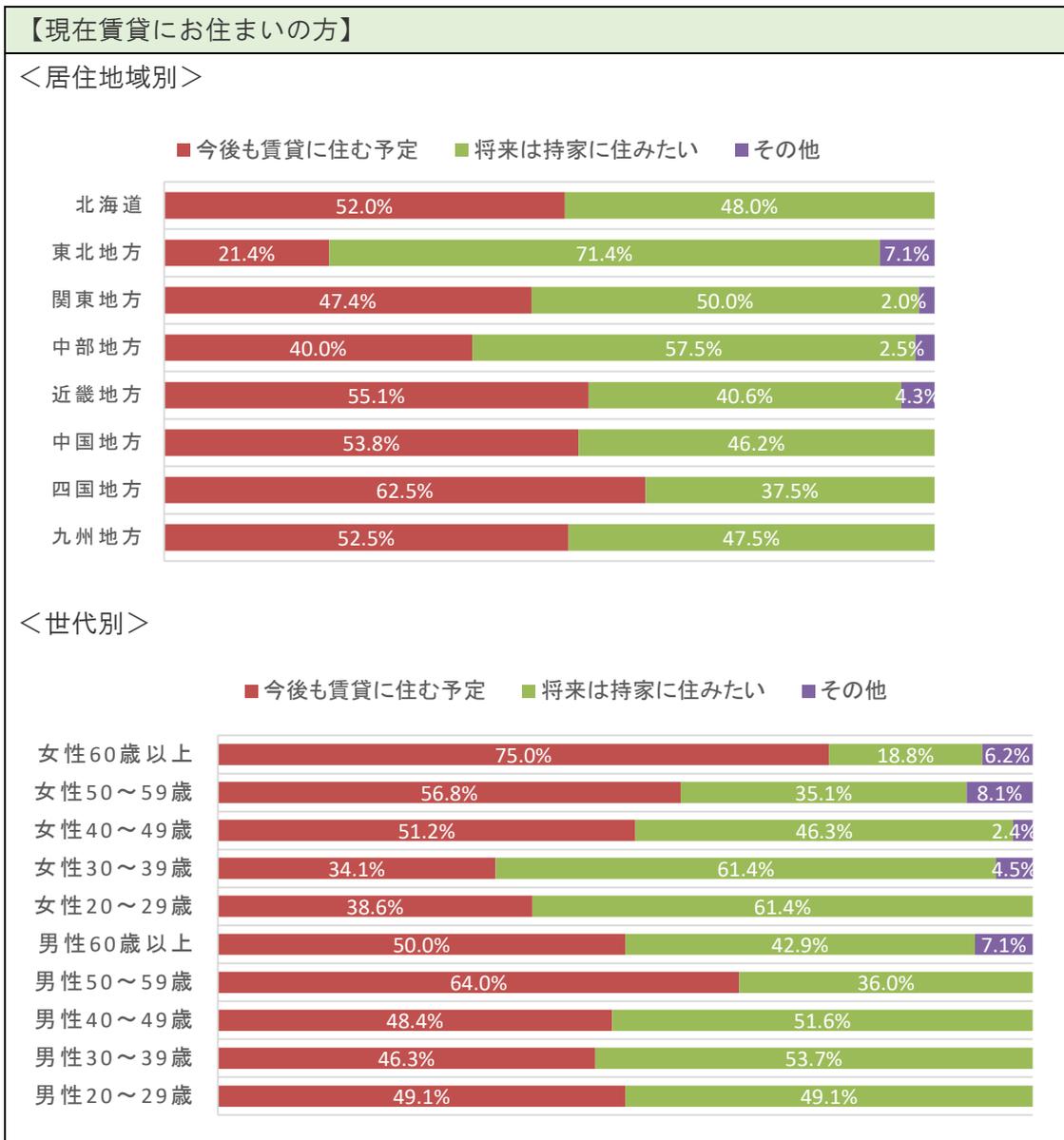
集団感染のリスクが低い	近隣住民同士の騒音問題がない	庭がある	部屋が多い・広い	特になかった	その他
48.7%	39.3%	36.5%	32.4%	25.4%	0.3%

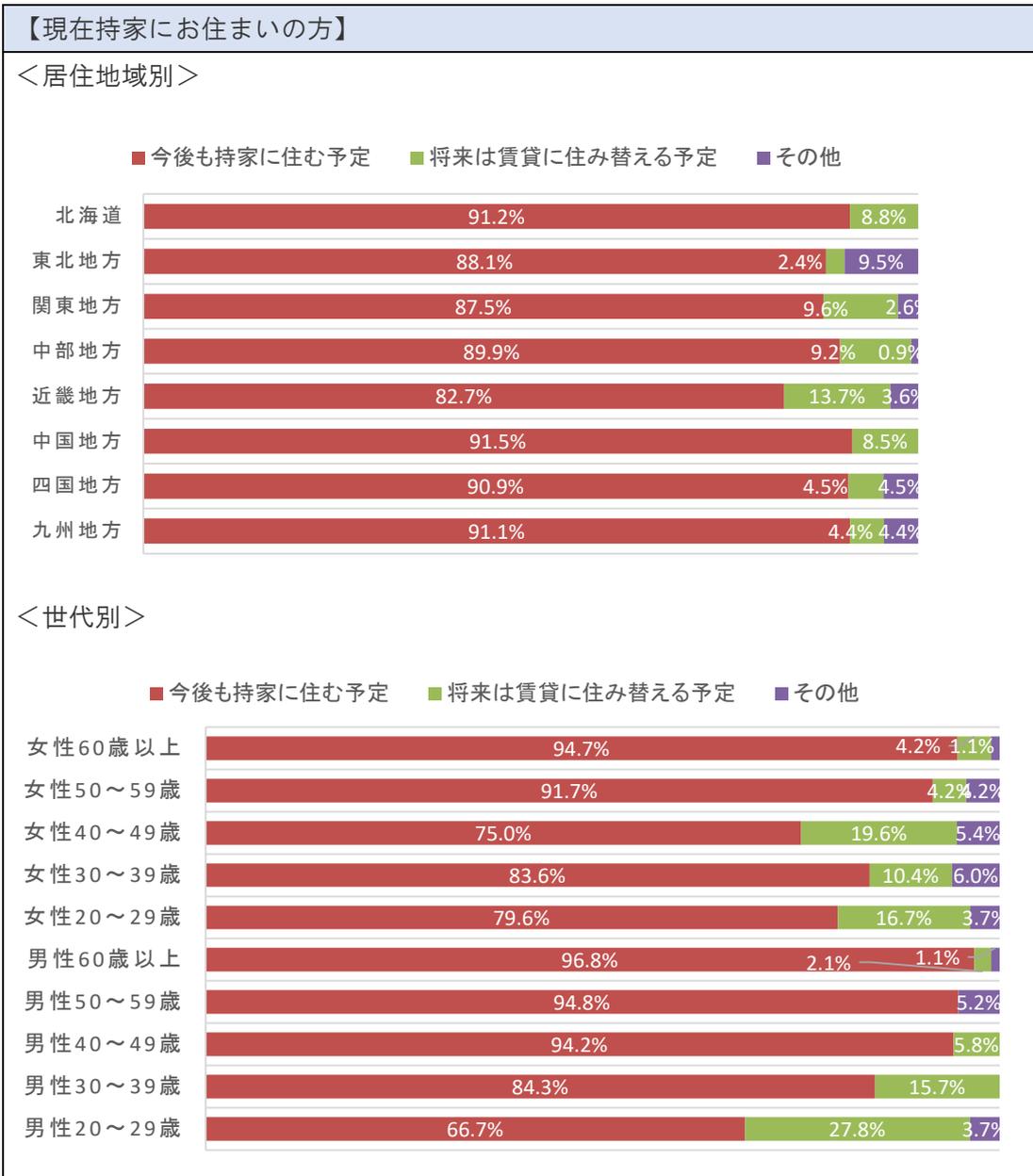
●その他の回答

- ・ 「夫婦でテレワークがしやすい環境にあった」

(5) あなたは賃貸派？持家派？

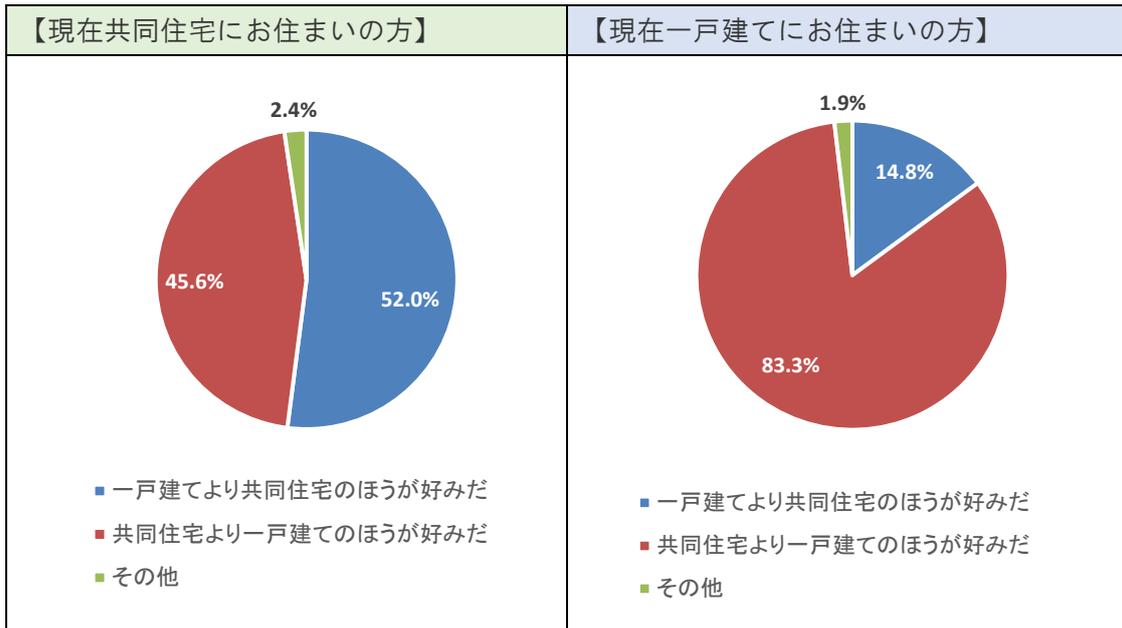
賃貸と持家のどちらが希望かを質問したところ、現在の住まいが持家の方については、地域・世代に関わらず、ほとんどの方が今後も持家に住みたいと希望されているという状況でした。一方、現在賃貸にお住まいの方については、東北地方では7割以上の方が「将来は持家に住みたい」と回答されているのに対し、他の地域では約4割～5割と地域によって差が見られ、世代別で見ても、20代女性・30代女性では持家を希望される方が6割程度であるのに対し、60歳以上の女性では約2割、50代男性と60歳以上の男性では約4割となるなど、差が見られました。





(6) あなたはマンション派？一戸建て派？

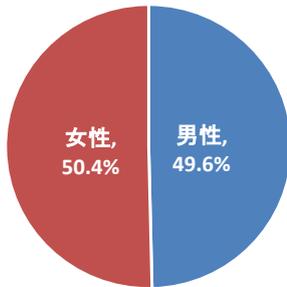
共同住宅（マンション等）と一戸建てのどちらが好きかを質問したところ、以下のグラフのとおり、現在の住まいがどちらであるかによって、大きく差が出るという結果となりました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響による嗜好の変化について質問したところ、77.7%の方が「特に変わらない」、15.2%の方が「一戸建てでよかった、もしくは一戸建てに住み替えたいと思うようになった」と回答されました。



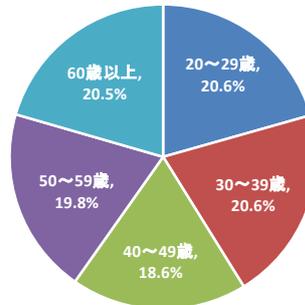
■ アンケート回答者属性

調査タイトル	住まいへの意識に関する調査
調査方法	インターネットリサーチ
調査対象	性別：男女 年齢：20歳以上 地域：全国
有効回答数	1,078

<性別>



<世代別>



<居住区分別>

